

Distal Ulna Plate Surgical Technique

1 プレート形状の確認

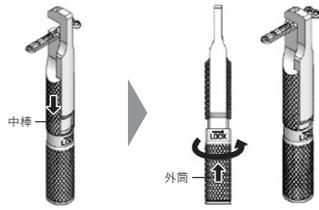
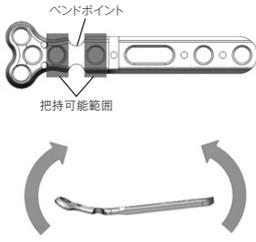
(1) サイズ確認

骨折部を修復し、テンプレート
を当て設置位置および、適切
なプレート長を確認します。
確認の際、テンプレートにロッ
キングドリルガイドを取り付け、
取手として使用できます。



(2) ベンディング

骨面に合わせて任意でベンディング
が可能です。把持可能範囲内を
ベンダーで把持し、ベンディング
を行います。



① 中棒を矢印方向に
スライドさせ、プレ
ートを装着します。その
際、ピンをプレートの
スクリューホールに
通します。

② ばねの力でプレートが
仮固定されるので、
外筒を「LOCK」の
矢印方向に回して、
プレートを完全に固
定します。

③ 把持可能範囲をベン
ダーで把持し、必要に
応じてベンディングを
行います。
**上下方向のみ可で、ねじ
り方向、前後方向は不
可です。**

2 ターゲット デバイスの装着

プレートの遠位部に六角レンチ
を用いて、ターゲットデバイス
を装着します。



ターゲットデバイス
使用時

3 プレートの設置・仮固定

適切な位置に本品を設置し、必要に
応じてガイドピンにて仮固定を行います。
※ ロッキングドリルガイドにガイドピン
スリーブを取り付け、仮固定が可能です。



ロッキングドリルガイド使用時

4 プレートの固定 (長穴)

(1) スクリューホールの作製
長穴にドリルガイドおよびソリッド
ドリルを用いて、スクリューを挿
入するための下穴を作製します。



(2) スクリュー長の決定
プレート越しにデプスゲージ
(フックタイプ)で深度を測定
し、測定値以上の長さのスク
リューを選択します。



デプスゲージ(フックタイプ)
の測定値とスクリューの関係

(3) スクリューの挿入
トルクミテーションドライ
バーを用いてスクリューを
挿入します。スクリューホル
ダーを使用することでスク
リューを把持することが
できます。



5 プレートの固定 (プレート遠位部)

(1) スクリューホールの作製

ターゲットデバイス越しにロッキング
ドリルガイドを取り付けます。ソリッド
ドリルを用いてロッキングドリルガイド
越しに、スクリューを挿入するた
めの下穴を作製します。



(2) スクリュー長の決定

ロッキングドリルガイド越し
にデプスゲージ(ストレート
タイプ)で深度を測定し、
測定値以下の長さのスク
リューを選択します。



デプスゲージ(ストレートタイプ)
の測定値とスクリューの関係

(3) スクリューの挿入
トルクミテーションドライ
バーを用いてスクリューを
挿入します。スクリューホル
ダーを使用することでスク
リューを把持することが
できます。同様の手順で他
の遠位部のスクリューを挿入
します。



(4) ターゲットデバイスの取り外し
六角レンチおよびトルクス
スモールドライバーを用いて、
ターゲットデバイスを
取り外します。取り外した後に点線
で示した止めネジの部分にも同様にスク
リューを挿入することができます。



6 プレートの固定 (プレート近位部)

(1) スクリューホールの作製

ノンロッキングスクリューを挿入する
場合はドリルガイドおよびソリッドドリル
を、ロッキングスクリューを挿入する
場合はロッキングドリルガイドおよび
ソリッドドリルを用いて、スクリューを
挿入するための下穴を作製します。



(2) スクリュー長の決定

プレート越しにデプスゲージ
(フックタイプ)で深度を測定
し、測定値以上の長さのスク
リューを選択します。



デプスゲージ(フックタイプ)
の測定値とスクリューの関係

(3) スクリューの挿入
選択したスクリューを
トルクミテーションドライ
バーにて挿入します。
同様の手順で近位部の
スクリューを挿入します。



7 設置完了

【プレートの抜去について】

トルクススモールドライバー
を用いて、長穴のノンロッキング
スクリューを最初に抜去した後に、
他のノンロッキングスクリューも
1本ずつ抜去します。その後、
ロッキングスクリューを1本ずつ
抜去します。



2025年2月 ver.1

製造販売業者

メイラ 株式会社

TEL 0575-24-7059

製造業者

メイラ株式会社

問い合わせ先

メイラ株式会社 メディカル事業部 業務グループ TEL 052-459-1277 (直通) / FAX 052-459-1282